



創作ネットワーク委員会 + Ort-d.d プロデュース

# 昏 睡

人類史に想いを馳せる二人芝居7編からなるオムニバス、  
各編を全国各地で製作し統合するコラボレーション！

2005年2月24日～28日  
にしすがも創造舎 特設劇場

主催  
創作ネットワーク委員会  
共催  
NPO 法人アートネットワーク・ジャパン

お問合せ

Ort-d.d

TEL.090-5204-8941 FAX.042-522-1418 [ort@m78.com](mailto:ort@m78.com)

東京国際芸術祭

TEL.03-5961-5202 FAX.03-5961-5207 [tif@anj.or.jp](mailto:tif@anj.or.jp)

## 作品紹介

「眠る眠る　　祈る祈る  
今日を終わらせ　明日を夢見る  
やがて訪れる　昏睡　は  
永い祈り　　になるだろう ……………」

兵士と捕虜、国王と女王、老夫婦、不倫のカップル…、  
"眠り"、につく7組の男女が登場する二人芝居の連鎖。

それは中心の無い世界地図か、書かれなかった歴史書か。

数々の戯曲賞で評価された南の作家が書いた現代の神話に  
各地でリーダーシップを発揮する俊英の演出家たちが挑む。

果たして、こんなことが本当に可能なのか？

### **これはニッポンを横断する現代演劇の冒険である**

『昏睡』は宮崎県都城市を拠点にする劇団こぶく劇場の劇作家・永山智行による新作であり、永山いわく「創世記を背景に人類史を描く」という壮大なテーマを持った作品です。7組の男女によるオムニバスで構成され、それぞれが独立したシーンでありながらも、全てを見ると一つの大きな感動を呼び起こす内容となっています。この7つのシーンを各地域で振り分け、各地域の演出家と総合演出家が共同で創作を行います。

俳優は各地域で選抜。その後、各地域の演出家と協力しながら、総合演出の倉迫が各地域を移動し稽古をしていきます。公演一週間前から全ての出演者が宮崎に集合、合宿稽古により一つの作品としてまとめあげます。

(作家・演出のプロフィールは7頁以降をご覧ください)

## 創作ネットワーク委員会とは

倉迫康史(Ort-d.d 東京都・宮崎県宮崎市)を代表に、久保田修治(POP THEATE 山口県柳井市)、泊篤志(飛ぶ劇場 福岡県北九州市)、森本孝文(演劇企画夢 ORES 鳥取県鳥取市)、永山智行(劇団こふく劇場 宮崎県都城市)によるネットワーク組織。東京国際芸術祭リージョナルシアター・シリーズやこまばアゴラ劇場でのサミット、利賀フェスティバルなどで出会い、交流を重ねてきた5人が、「**地域同士の連携による演劇界と地域文化の活性化**」を目指し結成。

## 創作ネットワーク委員会からご挨拶

地域における「芸術文化の振興」のための有効策として、「各地域のネットワーク化」が唱えられるようになってから、数年が過ぎました。その間、公共ホールの制作面でのネットワークや劇団同士の私的なレベルでの協力体制は敷かれるようになり、一定の成果を挙げてきました。しかし、現場の演劇人のネットワークによる新たな創作スタイルの提案はこれまでなされていません。

私たちはここ数年、互いの地域を行き来しながら、互いの作品を見、対話を重ねてきました。その成果として、私たちの間には作品的な信頼と人間的な信頼によって結ばれた自発的なネットワークが生まれました。また、幸いにも現在ではそれぞれが各地域の演劇界で重要な役割を担い、作品的にも多くの地域でその名を知られるようになってきました。今こそ、私たちのネットワークを活かすことで、演劇界に新たな提案をできる時ではないかと考えたのです。

そこで私たちは、演劇人のネットワークを活かした新たな創作のカタチとして、今回の『昏睡』の上演を企画しました。「**各地域を代表する演劇人が協力して一本の作品を創り、全国へと発信すること**」によって生まれる刺激と交流によって、私たちはそれぞれの地域と日本全体の芸術文化の活性化に貢献することを目指します。

### 創作ネットワーク委員会

委員長	倉迫康史	(Ort-d.d/東京・宮崎)
委員	久保田修治	(POP THEATER /柳井)
	泊篤志	(飛ぶ劇場/北九州)
	永山智行	(こふく劇場/都城)
	森本孝文	(夢ORES/鳥取)

## 企画紹介

### 企画の始まり

『昏睡』プロジェクトの始動は、2003年8月19日、永山から倉迫に送られたメールである。当時、永山と倉迫は2004年春に行う合同公演『so bad yaer』の準備を進めていたが、その合同企画の第二弾として、永山が提案してきたのが「永山が書く7組の男女の話を、全国各地でキャスティングし、演出家が全国を飛び回って創作、最後に合宿稽古を行い、一本の作品にするのはどうか」というものだった。その提案を受けた倉迫は即座に「ダメでもともと、でもできればすごいことになる。やりましょう」と返信し、この前代未聞の無謀な企てはスタートした。

倉迫は東京と宮崎の二拠点制をしき、2002年に独力で鳥取 - 山口 - 北九州ツアーを行うなど、早くから各地域の演劇人のネットワーク作りを行ってきた。その過程で出会った人の中から、この企画を行うに足る熱意と実力を持った演出家に声をかけ、企画への賛同を呼びかけた。それが久保田、泊、森本である。全員からすぐに返事がきた。「おもしろいね、やろう」。創作ネットワーク委員会は結成された。

### 広がっていった輪

この企画に最初に興味を示したのが、東京国際芸術祭を主催する「NPO法人アートネットワーク・ジャパン」。創作ネットワーク委員会メンバーの多くが、東京国際芸術祭リージョナルシアター・シリーズに関わった人間であるため、企画の立ち上げから様々なアドバイスをを行い、ブレイン的な役割を果たした。

次に本企画を「財団法人セゾン文化財団」へ助成申請した。セゾン文化財団は説明に訪れた倉迫の主張に熱心に耳を傾け、この企画が「演劇環境を良くするためのもの」と判断し、助成を決定した。この決定によって本企画は、多くの演劇関係者の注目を集めることになった。

上演会場としては、宮崎県で演劇に熱心な公共ホールである「門川町総合文化会館」が最初に決定。続いて、2004年にオープンし、先鋭的な作品の上演を行っている「山口情報芸術センター」が決定。山口公演に関しては、担当者の尽力によって「財団法人地域創造」からの助成も行われることになった。そして東京公演は、2004年夏にアートネットワーク・ジャパンが廃校になった中学校をアーツセンターとしてよみがえらせた「にしすがも創造舎」で行うプランが浮上。東京国際芸術祭の公式プログラムとなり、にしすがも創造舎初の演劇上演となる。さらに、宮崎県の三股町立文化会館での上演も決定。2005年2月6日から宮崎県門川町で全出演者・スタッフが集合して合宿稽古を行い、その後、門川・三股・山口・東京の四会場をツアーすることとなった。

### 消えてゆく世界

世界地図が少しずつ消えてゆく世界、  
例えばイタリア半島が、マダガスカル島が、太平洋の島々が  
ゆっくりと薄くなって消えてゆく、そんな世界。

「地球はもう本当にだめかもしれない」  
そんな危機感がこれほどまで我らの裡にはっきりと芽生えたことことはない。  
ノストラダムスの予言に対するような実体の無い不安ではなく、  
もっとはっきりとした不安、あるいは諦念、あるいは絶望。

こうした「破滅の予感」を描いた作品はこれまでも数多くあった。  
80年代から90年代の日本の演劇やアニメ、漫画においては陳腐な設定だといえる。  
しかし、それらの先行する作品と、昨今の作品の最大の違いは何か、  
それは「破滅」が圧倒的にリアルな出来事であるということだ。  
「破滅」が何かのメタファーではなく、  
我々は今、まさに即物的な「破滅」への時間の流れの中にいるという実感と、  
その「時間」をどう受け止めるべきかという現実的な生命観の課題を生きている。

少しずつ世界地図は消えてゆく、少しずつ我々は歴史を失っていく。  
このことを我々はどう受け入れていくのか。これが『昏睡』の世界観の基盤である。

### 避難と未避難

永山氏の書いた『昏睡』という戯曲は七編の詩である。  
いわゆるト書きは極限まで削られ、  
男女二人による言葉のやり取りが、“ただそこにある”。  
この二人が何者なのか、どうしてここにいるのか、  
それは演出によっていかようにも設定できる。

総合演出である私は、『昏睡』世界を避難民たちの世界であると感じた。  
戦争からか、洪水からか、震災からか、飢餓からか、  
あるいは独裁者からの亡命か、世界は多くの避難民であふれている。  
一見、安全に見える私たちも「今はまだ避難せずにすんでいる」だけに過ぎない。

舞台では避難民たちによる二人芝居が展開していき、  
それと同時進行で未避難の世界に住む一組の夫婦の生活が描かれる。  
やがて避難民たちの世界と未避難の夫婦の世界は融合する。

祈りとは

『昏睡』という戯曲からは永山氏の「祈り」を強く感じる。  
「祈り」とは何だろうか？

祈りの内容を問うているのではない。  
祈ることによって人々の精神にどのような作用が引き起こされるかを問うている。

誤解を恐れずに言えば、「祈り」とは  
自らの身、あるいは人々の身に起こった理不尽な出来事を  
受け入れるための「時間の過ごし方」である。  
理不尽さへの怒り、悲しみ、嘆き、  
その理不尽さを「許す」ための時間。  
あるいは逆もあるだろう。  
自らの理不尽さを「許してもらおう」ための時間。  
祈りとは「許し、許されること」の創造であり、  
そのために費やされる時間のことである。

世界各地で行われる人々の祈り、私はそこに「人の美しさ」を見る。  
私は演劇とは「その地に住む人々の祈りの結晶」であると思っている。  
演劇の存在価値はそこにある。  
今回のプロジェクトには日本のいくつかの地域から  
演劇という「祈り」に携わる人々が集まった。

我々はただよせ集まったのではない。  
我々の祈りを結集して、より大きな祈りへと到達するために集まったのだ。

『昏睡』、ご期待ください。

## プロフィールとコメント

### 永山智行（こふく劇場・宮崎）

「冒険の為の地図を書いてみた。

現代演劇の最前線で戦う日本各地の演出家と俳優が、その地図を頼りにかつてない冒険の旅に出ようとしている。臆病者の私は遠く離れた灯台の一室に籠り、固唾を飲み、その旅の行方を見守っている。せめて手を合わせ、この旅が、現代演劇の新しい地平を切り開くものとなるよう、強く祈ろう」

劇団こふく劇場代表（1967年生）

96年の『空の月、胸の石』、97年の『北へ帰る』で二度、日本劇作家協会新人戯曲賞最終選考に残る。01年『so bad year』で愛知県文化振興事業団主催の第二回AAF戯曲賞優秀賞受賞。02年『やがて父となる』で東京国際芸術祭リージョナルシアター・シリーズに招聘される。宮崎県演劇協会会長

### 倉迫康史（Ort-d.d・東京/宮崎）

「私は人と人をつなぐことが好きだ。私が演劇をやっているのは、そのつながりを生みたいからに他ならない。私以外の4人はそれぞれの土地で現代演劇という樹木を育てるために、荒野を開拓し、水を注ぎ続けてきた人たちばかりだ。その開拓者としての勇気と粘り強さに魅力を感じ、僕は彼らとつながってきた。その個々のつながりを今、一つの大きな絆にしてみせる。競い合い、協力し合うことで、より太いつながりとより強い勇気を得るために。そうすればやがて樹木は威風堂々とした大樹となる」

Ort-d.d プロジェクトリーダー（1969年生）

Shizuoka 春の芸術祭、利賀フェスティバルなど多くの演劇祭に招聘される。

04年、こふく劇場との合同公演『so bad year』で東京国際芸術祭リージョナルシアター・シリーズにFRINGE参加。同年、国の重要文化財である東京国立博物館表慶館にて『四谷怪談』を上演。舞台芸術財団演劇人会議評議委員・宮崎の文化を考える懇談会委員

### 自由下僕（POP THEATRE ・山口）

「周りに演劇をやっている人などいない地域で活動していると、他の劇団との共同作業なんて一生することはないだろうと思っていた。それが、こんな画期的な形で実現しようとは！しかも相手は、一度は一緒にやってみたいと思っていた人たちばかりである。他のチームの仕上がりを気にしながらの稽古は、これまで以上に刺激的で楽しい。さて今回は、ホームグラウンド以外ではお見せしたことの無い『会話劇ではないPOP THEATRE 』。必見！」

POP THEATRE 代表 (1958 年生)

00 年の『蛇口』と 02 年の『空』で二度の東京国際芸術祭リージョナルシアター・シリーズ招聘。『蛇口』は日本劇作家協会新人戯曲賞最終選考に選ばれる。00 年より本拠地「みどり会館」にて IKACHI 国際舞台芸術祭を主催。03 年より特定非営利活動法人 IKACHI 国際舞台芸術祭として法人化、理事長に就任

### 泊 篤志 (飛ぶ劇場・北九州)

「日本各地でオムニバスを創り、1 本の作品に結集させるだなんて企画、ありそうでなかなか無かったことじゃないかと思う。やれそうだけど意外に大変だと思う。各地域の温度差とかあるし(って体温とか気温では無いよ、それもあるけど)。その一端を担うことが出来て光荣、というか大変。負けられんしね。永山氏の永山氏らしからぬ戯曲もコチラの想像力を掻き立ててくれる野心作で、受けて立とうじゃないの！と思う。出来上がってきたピースが合体したら、どんな姿になるのか？参加者という立場で無くても楽しみだったりする。」

飛ぶ劇場代表 (1968 年生)

『生態系カズクン』で日本劇作家協会新人戯曲賞最優秀賞受賞。00 年『IRON』が岸田國士戯曲賞最終候補に選ばれる。99 年の『IRON』で東京国際芸術祭リージョナルシアター・シリーズに招聘。02 年の『ミモココロモ』、04 年、『生態系カズクン』『カズクン、旅に出る』、05 年、『Red Room Radio』で東京国際芸術祭メインプログラムに参加。北九州芸術劇場学芸係ディレクター

### 森本孝文 (演劇企画 夢 ORES・鳥取)

「倉迫氏と「地域間ネットワーク」というキーワードをここ何年間か一緒に考えてきた。その一つの答えとして彼の出してきた企画は・・・ムフフッ！！プロデューサーとしての仕事に追いかけていたが、コイツはしっかりと踏ん張って。久しぶりに血がたぎるといふか、燃えるといふか・・・しかしいい歳なので血圧に気をつけながらも、一丁やりますかって感じにさせてくれました。力強い仲間達(ライバル)を得て、ここから何かを始められなければ男じゃないぞ！」

演劇企画 夢 ORES 代表 (1959 年生)

01 年、舞台芸術活性化事業として『本日はお日柄もよく』を作・演出、平田オリザ氏を共同演出に迎える。アーツデザインとっとり副委員長に就任、02 年よりとっとりパフォーミングアーツフェスティバルのディレクターをつとめる。BeSeTo 国際委員会日本委員、舞台芸術財団演劇人会議評議委員、鳥取大学地域教育科学部非常勤講師



## 公演概要

スタッフ：作 永山智行（こふく劇場・宮崎）  
演出 倉迫康史（Ort-d.d・東京/宮崎）  
自由下僕（POP THEATRE ・山口）  
泊 篤志（飛ぶ劇場・北九州）  
森本孝文（演劇企画 夢 ORES・鳥取）  
総合演出 倉迫康史  
美術 伊藤雅子  
照明 木藤 歩（balance, inc.）  
衣裳 竹内陽子  
ヘアメイク 田丸暦・谷直美  
舞台監督 弘光哲也

キャスト：泉 陽二 （東京） \*元東京オレンジ。グラフィクエルディ所属  
市川 梢 （東京）  
岡田宗介 （東京）  
田丸こよみ（東京） \*元指輪ホテル。nest などにも出演  
三橋麻子 （東京）  
宮島 健 （東京） \*第三エロチカ俳優。オフィスコトナーネ所属  
山路 誠 （東京） \*ユニークポイント俳優  
国崎砂都美（POP THEATRE ・山口）  
西田純子 （POP THEATRE ・山口）  
有門正太郎（飛ぶ劇場・北九州）  
寺田剛史 （飛ぶ劇場・北九州）  
橋本 茜 （飛ぶ劇場・北九州）  
あべゆう （こふく劇場・宮崎）  
上元千春 （こふく劇場・宮崎）

主催 創作ネットワーク委員会  
製作 Ort-d.d  
助成 財団法人セゾン文化財団  
問合せ Ort-d.d 東京事務所 TEL.090-5204 - 8941 FAX.042-522-1418  
[ort@m78.com](mailto:ort@m78.com) <http://ort.m78.com>  
〒190-0023 東京都立川市柴崎町 1-7-17-201

【宮崎公演 1 (門川町)】

会場 門川町総合文化会館 0982-63-0002  
〒889-0611 宮崎県東臼杵郡門川町大字門川尾末 1140 - 8

日時 2005年2月12日(土) 19時  
13日(日) 14時  
\*開場は開演の30分前。受付開始は開演の60分前

料金 前売・当日共 一般2000円 高校生以下1500円

発売日 12月12日(日)

チケット 門川総合文化会館 0982-63-0002  
ローソンチケット 0570-063-008 (Lコード 86312)  
劇団こぶく劇場 0986-26-6422 [gekijo@cofuku.com](mailto:gekijo@cofuku.com)

問合せ 門川町総合文化会館 0982-63-0002  
劇団こぶく劇場 0986-26-6422

主催 財団法人門川ふるさと文化財団

【宮崎公演 2 (三股町)】

会場 三股町立文化会館  
〒889-1901 b宮崎県北諸県郡三股町大字樺山 3404-2

日時 2005年2月15日(火) 19時30分 \*開場は開演の30分前。

料金 前売・当日共(全席自由)  
一般 2,000円  
高校生以下 1,500円 未就学児入場はご遠慮ください。

チケット 三股町立文化会館 0986-51-3462  
霧島べいすん演劇鑑賞会 0986-21-8082  
ローソンチケット 0570-063-008 (Lコード 86615)  
劇団こぶく劇場 0986-26-6422 [gekijo@cofuku.com](mailto:gekijo@cofuku.com)

問合せ 三股町立文化会館 0986-51-3462  
劇団こぶく劇場 0986-26-6422

主催 三股町・三股町教育委員会  
宮崎県文化ホール連携プログラム活用事業

【山口公演】

会場 山口情報芸術センター・スタジオA 083-901-2222  
〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7 <http://www.ycam.jp/>

日時 2005年2月19日(土) 19時  
20日(日) 14時  
\*開場は開演の30分前。受付開始は開演の60分前

料金 前売・当日共 一般 2000 円 エニ－会員等割引 1500 円 学生 B 席 1000 円  
(全席指定)  
発売日 12 月 11 日(土)  
取扱い 山口情報芸術センター 083-920-6111 (受付時間 10:00～19:00)  
火曜休館(祝日の場合は翌日)  
問合せ 山口情報芸術センター TEL.083-901-2222 FAX.083-901-2216  
主催 財団法人山口市文化振興財団  
企画制作 創作ネットワーク委員会 山口情報芸術センター  
助成 財団法人地域創造 財団法人全国市町村振興協会

-----  
シンポジウム「地域をめぐる冒険」 入場無料

日時 2005 年 2 月 17 日(木) 19:00

会場 山口情報芸術センター スタジオ C

昏睡各演出家と山口市で活動する演劇人による地域における演劇活動の可能性を  
探るシンポジウムを行います。

#### 【東京公演】

東京国際芸術祭参加・にしすがも創造舎での初の演劇公演

会場 にしすがも創造舎 特設劇場 03-5961-5200

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1 旧朝日中学校

<http://anj.or.jp>

日時 2005 年 2 月 24 日(木) 19 時 30 分

25 日(金) 20 時

26 日(土) 15 時・19 時 30 分

27 日(日) 14 時

28 日(月) 15 時・19 時 30 分

\* 開場は開演の 30 分前。受付開始は開演の 60 分前

料金 前売・当日共 一般 3000 円 学生 2000 円

\* 全席自由。当日受付にて整理番号を配布します。

\* 学生の方は受付で学生証を提示してください。

発売日 1 月 14 日(金)

取扱い チケットぴあ 0570-02-9999 0570-02-9966 (P コード 358-889)

<http://t.pia.co.jp>

東京国際芸術祭(TIF) TEL.03-5961-5202 <http://tif.or.jp>

Ort.d-d TEL.090-5204-8941 [ort@m78.com](mailto:ort@m78.com)

共催 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン